



2011年8月22日
株式会社ウェッジホールディングス
2011年8月 会社説明会

Contents

- **当社の概要**
 - 会社概要
 - 沿革
 - グループの構成
 - 海外事業
 - 国内事業

- **2011年9月期第3四半期業績と財務状況**
 - 2011年9月期 第3四半期連結累計期間経営成績(P/L)
 - 連結業績の推移
 - 2011年9月期 第3四半期連結財務状況(B/S)

- **セグメント別業績と事業トピックス**
 - セグメント別売上高および営業利益
 - セグメント別売上構成
 - 投資育成事業の概況
 - ゼボラリゾートの順調な稼働
 - ファイナンス事業の概況
 - コンテンツ事業の概況
 - 物販事業の概況

- **今後の事業方針と各事業の取り組み**
 - 昭和ホールディングスグループへの参加について
 - 昭和HDグループとの提携強化へ
 - 当社グループの事業方針
 - 各事業の取り組み

- **業績予想と株主還元について**
 - 2011年9月期(第10期)の連結業績予想
 - 株主還元に関する方針

当社の概要

会社概要

- **会社名: 株式会社ウェッジホールディングス**
(英語表記: Wedge Holdings CO., LTD.)
 - － **設立:** 2001年10月
 - － **資本金:** 1,939,143,700円
 - － **上場市場:** JASDAQ グロース
 - － **代表者:** 代表取締役社長 田代宗雄
 - － **本部事業所:** 東京都中央区日本橋本町1-9-4
Daiwa日本橋本町ビル
 - － **従業員数** 262人(うち海外182名)
※グループ全体・2011年6月末時点
 - － **グループ会社**
 - **国内子会社** 株式会社 ラディクスモバニメーション
株式会社 ペプトワンニュートリション
 - **海外子会社** Group Lease PCL(タイ 証券取引所一部上場)
Engine Holdings Asia PTE(シンガポール)
 - **持分法適用関連会社**
P.P. Coral Resort Co.,Ltd(タイ)
Engine Property Management Asia Co.,Ltd.(タイ)

沿革

- 2001年10月 株式会社ブレインナビとして設立
 - » 編集プロダクション事業を中心に展開
- 2004年1月 大阪証券取引所ヘラクレス市場(現JASDAQ)に株式上場
 - » 翌年にかけて、物販事業、投資事業へとM&Aを含め事業領域を拡大

- 2005年7月 会社分割により株式会社ウェッジホールディングスとして持ち株会社に移行
 - » その後一部の子会社の吸収により事業持ち株会社化
 - » 2007年9月期まで3期連続の赤字が続く業績低迷期に
 - » 2007年9月 第三者割当増資により東南アジアに展開する投資会社APFグループが筆頭株主に

2001~2004

設立と
上場期

2005~2007

業績
低迷期

2008

経営
改革期

2009~

新たな
成長へ

- 2007年12月 経営体制を刷新、改革に着手
- 2008年11月 2008年9月期、黒字転換

- 2009年1月 シンガポールにEngine Holdings Asiaを設立、東南アジアへの投資基盤を強化
- 2009年7月 タイ株式市場一部上場ファイナンス会社 Group Lease PCLを連結子会社化、ファイナンス事業に進出
- 2010年7月 コンテンツ事業・物販事業子会社を吸収合併
- 2011年5月 昭和ホールディングス株式会社が当社株式の50.62%を取得、親会社に

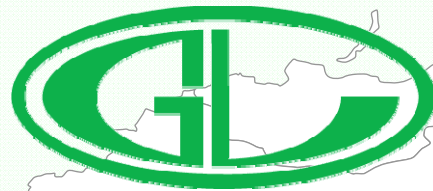
グループの構成

〔タイ〕



Zeavola Resort
＜リゾートホテル＞
（投資先不動産）

※投資事業によりホテル保有会社2社を
2011年4月持分法適用関連会社化



Group Lease PCL
＜ファイナンス事業＞

〔日本〕



**株式会社
ウェッジホールディングス**
コンテンツ事業・物販事業

〔シンガポール〕



Engine Holdings Asia PTE
投資育成事業

出資

出資

海外事業

投資育成事業

- 東南アジア中心の投資に注力
 - シンガポールの投資子会社から東南アジアへの投資を実施
 - 有価証券から不動産投資へも展開、2011年4月タイ国内のリゾートホテルも傘下に



ファイナンス事業

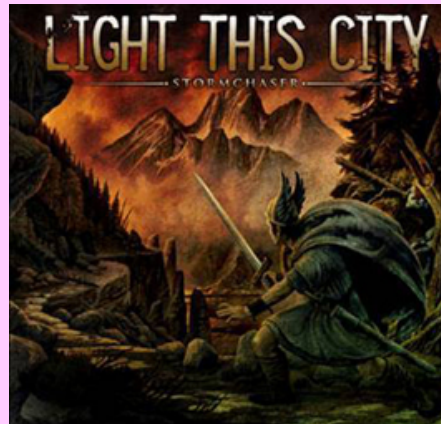
- タイ国内市場でオートバイ・ファイナンスを展開
 - 一般消費者・個人事業主のオートバイ購入資金をファイナンス
 - 確実な成長と高収益でグループの収益の中核に



国内事業

コンテンツ事業

- カードゲーム・書籍制作・出版
 - カードゲームを収益の柱として大手玩具メーカー、出版社に広く顧客基盤を持つ創業事業
 - 携帯コミック配信など電子書籍領域にも展開
- 音楽事業
 - 洋楽レーベルSpinningを中心に海外・国内アーティストをプロデュース。



物販事業

- 海外キャラクター商品の卸売・小売
 - フィギュアなど海外キャラクター商品の正規輸入代理店事業
 - Web通販を中心に小売事業も展開
 - オリジナル商品の企画開発も行う





**2011年9月期第3四半期
業績と財務状況**

2011年9月期第3四半期連結累計期間 経営成績 (P/L)

(単位：千円)

	2011年9月期 第3四半期累計	(参考)2010年9月期 第3四半期累計	(参考)2009年9月期 第3四半期累計	対前年比
売上高	2,820,847	2,705,694	1,360,681	104.3%
営業利益	830,388	532,903	-58,750	155.8%
経常利益	782,285	489,004	90,740	160.0%
当期純利益	201,700	229,887	70,660	87.7%

- ・国内事業も東日本大震災の影響からほぼ回復し、全体としては売上高、営業利益ともに順調に推移し、前年同期比では4.3%増
- ・営業利益に関しては第2四半期までと同様、不採算事業の切り離しが功を奏し、前年同期比55.8%増
- ・当期利益に関しては、前年第2四半期に連結子会社売却による特別利益があったため、前年同期比で87.7%となった

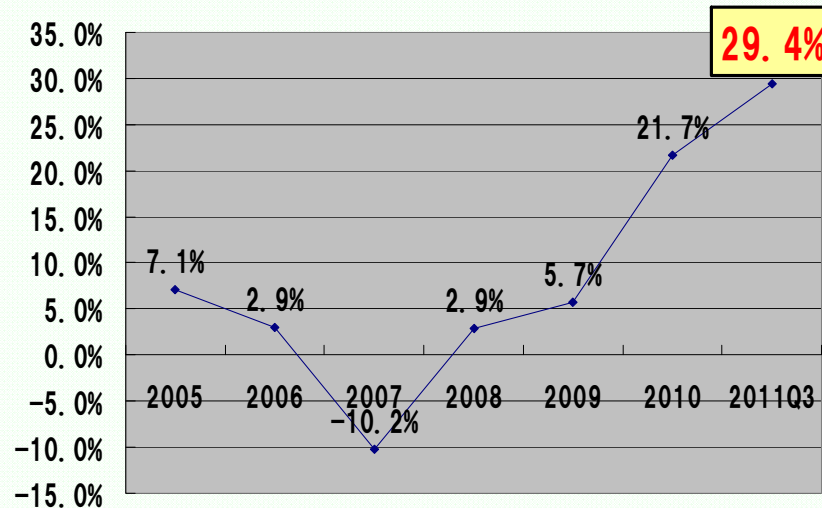
第3四半期は国内、海外事業とも順調に推移

連結業績の推移

(単位：千円)

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011Q3	2011 (業績予想)
売上高	1,337,059	3,277,380	2,593,505	2,139,054	2,417,459	3,699,833	2,820,847	4,000,000
営業利益	94,320	96,373	-265,347	62,321	137,362	802,506	830,388	1,000,000
経常利益	94,625	92,316	-273,791	146,164	322,026	761,444	782,285	950,000
当期純利益	-534,746	-717,671	-525,337	81,518	204,089	369,524	201,700	280,000

売上高営業利益率



- 2008年度より経常黒字化以後、順調に業績は伸長。
- 海外事業は継続的に拡大、収益の柱に
- 昨年の国内不採算事業の整理が奏功、営業利益率、経常利益率については大幅に改善
- 当期利益については、前年度は子会社売却による特別利益が含まれていた影響で前年同期を下回るものの、想定どおりで推移

海外の拡大と国内の改善で、
営業利益率、経常利益率は大幅な伸張に

2011年9月期 第3四半期連結財務状況(B/S)

(単位：千円)

連結貸借対照表	2010年9月期	2011年9月期 第3四半期	対前期末比
流動資産	4,396,646	7,227,827	164.4%
固定資産	5,669,137	2,981,495	52.6%
(内) 投資その他の資産	5,108,850	2,449,991	48.0%
資産合計	10,065,783	10,209,323	101.4%
流動負債	2,756,972	3,141,175	113.9%
固定負債	1,817,807	1,119,518	61.6%
負債合計	4,574,780	4,260,693	93.1%
株主資本合計	4,211,638	4,588,168	108.9%
純資産合計	5,491,003	5,948,630	108.3%

- ・前期末比では、ファイナンス事業の順調な拡大に伴い資産、負債ともに増加傾向だが、営業貸付金の区分を1年以内、1年超ではなく、正常債権は流動資産として、不良債権のみ固定資産とする区分表記の変更により、流動資産が大幅に増加し、固定資産が大幅に減少している
- ・第2四半期末に比較すると、投資事業部における海外資産の獲得により、投資その他の資産が大幅に増加した
- ・全体としては純資産も順調に増加し、良好な財務状態を維持している

事業基盤の拡充に伴い順調に規模を拡大中

セグメント別業績と 事業トピックス

セグメント別売上高および営業利益

(単位：千円)

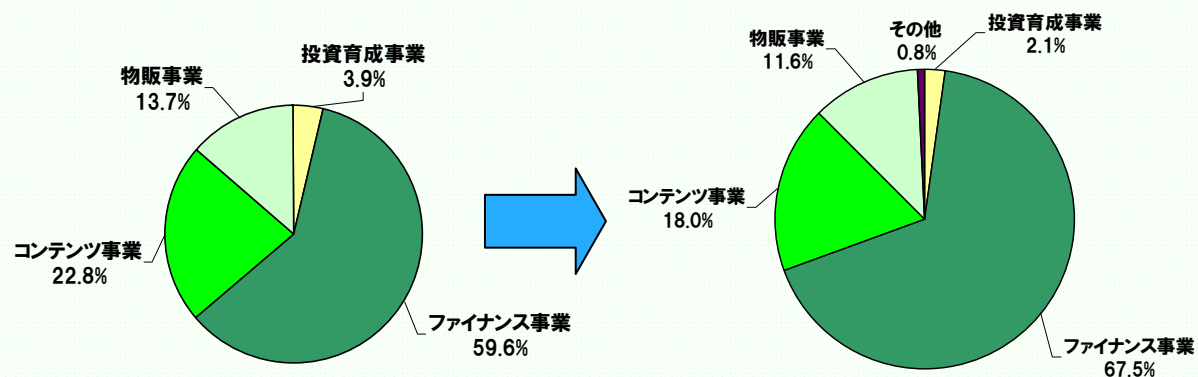
報告セグメント		2010年9月期 第3四半期累計売上	2011年9月期 第3四半期累計売上	前年同期比 増減率
投資育成事業	売上高	105,251	59,421	-43.54%
	営業利益	63,399	32,657	-48.49%
ファイナンス事業	売上高	1,613,369	1,903,080	17.96%
	営業利益	648,039	814,256	25.65%
コンテンツ事業	売上高	617,234	508,175	-17.67%
	営業利益	▲ 22,180	138,986	黒字転換
物販事業	売上高	369,837	327,293	-11.50%
	営業利益	▲ 12,814	▲ 13,250	-
その他	売上高		22,877	
	営業利益		▲ 36,090	
(合計)	売上高	2,705,694	2,820,847	4.26%
	営業利益	532,903	830,388	55.82%

コンテンツ事業の大幅黒字転換、ファイナンス事業伸長により
営業利益ベースでは大幅に改善

セグメント別売上構成

(単位：千円)

	2010年9月期 第3四半期累計売上		2011年9月期 第3四半期累計売上		前年同期比 増減率
	売上	比率	売上	比率	
投資育成事業	105,251	3.9%	59,421	2.1%	-43.54%
ファイナンス事業	1,613,369	59.6%	1,903,080	67.5%	17.96%
コンテンツ事業	617,234	22.8%	508,175	18.0%	-17.67%
物販事業	369,837	13.7%	327,293	11.6%	-11.50%
その他			22,877	0.8%	
(合計)	2,705,694	100.0%	2,820,847	100.0%	4.26%



- ・ファイナンス事業の順調な拡大が続き、引き続きファイナンス事業セグメントの比率があがっている

高成長のタイにおけるファイナンス事業が伸長し海外比率が拡大

投資育成事業の概況

(単位：千円)

報告セグメント		2010年9月期 第3四半期累計売上	2011年9月期 第3四半期累計売上	前年同期比 増減率
投資育成事業	売上高	105,251	59,421	-43.54%
	営業利益	63,399	32,657	-48.49%

- 第3四半期では投資運用していた社債8億の償還が完了、運用資金で東南アジアのリゾートホテル(Zeavola Resort)保有会社の株式取得を行う。
- 取得したZeavola Resortの業績は順調に推移、2011年1月～3月の利益は投資事業ではなくグループの連結利益に反映する構造に。



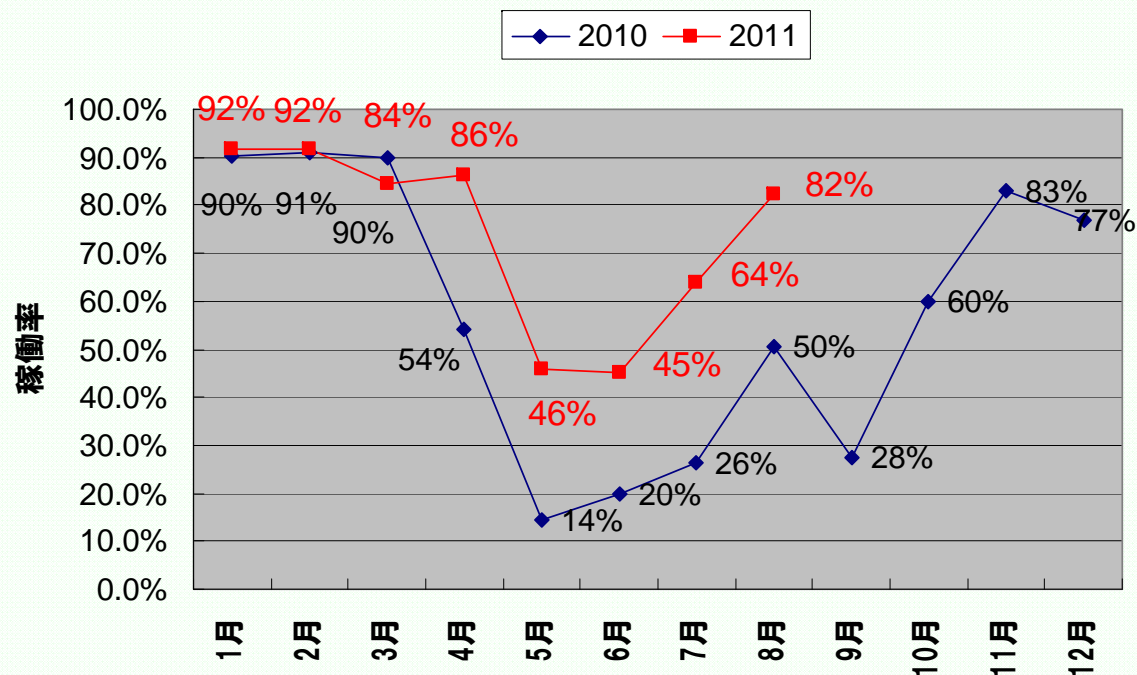
ゼボラリゾートの順調な稼働

- 2011年は昨年を大幅に上回る稼働状況。特に通常稼働が落ちるローシーズンでの施策が功を奏している。タイ国内の安定的な政治・経済状況を反映し過去最高の集客が期待できる状況
- 当社グループの第3四半期では持分法適用関連会社の2011年度1-3月期の業績を反映。好調な稼働状況で四半期営業利益は約53百万円を記録

稼働率推移 (2010~2011)

2011年1-3月期実績	
客室料収入	85,164
飲食収入	41,634
関連収入	31,159
その他	2,286
売上高合計	160,243
売上総利益	113,552
営業利益	53,742

(単位：千円)



ファイナンス事業の概況

(単位：千円)

報告セグメント		2010年9月期 第3四半期累計売上	2011年9月期 第3四半期累計売上	前年同期比 増減率
ファイナンス事業	売上高	1,613,369	1,903,080	17.96%
	営業利益	648,039	814,256	25.65%

- 東南アジアの高成長事業として、グループの収益拡大を牽引中**
 - タイにおいて一般消費者や個人事業主を中心にオートバイの購入資金を提供
 - 不良債権発生時はオートバイを回収し中古市場で売却することで貸し倒れがすくなく収益性が高い事業
 - アジアの経済成長を反映し、タイにおいてもオートバイの販売は好調に拡大中
 - タイ国内の新政権誕生で当面政治的にも安定が期待される状況に
- 前期からの新規契約の積み上げで売上の伸張が続く**
 - オートバイファイナンスは新規契約締結後、約2年で回収するビジネスモデル。昨年からの継続的な新規契約増加が貢献し対前年同期比で17.96%増と売上伸張が続いている。
 - 第3四半期は営業体制を見直したことで、新規契約は一時減少するも挺入れは順調。通期の見通しは従来どおり。

新規契約の蓄積効果で業績の伸張が続く

コンテンツ事業の概況

(単位：千円)

報告セグメント		2010年9月期 第3四半期累計売上	2011年9月期 第3四半期累計売上	前年同期比 増減率
コンテンツ事業	売上高	617,234	508,175	-17.67%
	営業利益	▲ 22,180	138,986	黒字転換

- **前期の事業再構築から黒字転換、収益拡大続く**
 - － 前年同期に不振だった映画・映像事業を2010年3月に売却した結果、売上高が減少となるも営業利益は大きく改善し、黒字転換に
- **震災影響は軽微**
 - － 懸念された震災の影響による出版点数減少などの影響は限定的で、編集事業なども受注は安定的に推移
- **カードゲーム事業が好調を持続、収益拡大。**
 - － 主力のカードゲーム事業も好調が続き、高収益性を維持。

主力のカードゲーム事業も順調に推移した結果、大幅な黒字転換へ

物販事業の概況

(単位：千円)

報告セグメント		2010年9月期 第3四半期累計売上	2011年9月期 第3四半期累計売上	前年同期比 増減率
物販事業	売上高	369,837	327,293	-11.50%
	営業利益	▲ 12,814	▲ 13,250	-

- **注力商品の入荷遅れにより売上減少**
 - － 第3四半期に入荷を予定していた注力商品の入荷が遅れ、第4四半期にずれこむことになったため、当四半期では売上が減少
- **第4四半期では回復見込み**
 - － 遅延した注力商品の入荷に加え、9月の「スターウォーズ」シリーズBlu-ray版などの発売に合わせてユニークなオリジナル商品の投入を予定しており、当初想定どおりの落着を見込む

商品の入荷遅れにより売上、利益ともに減少したが、回復を見込む



今後の事業方針と 各事業の取り組み

昭和ホールディングスグループへの参加について

- 昭和ホールディングスが親会社に
 - － 2011年5月30日、当社と同じAPFグループ系列の企業である昭和ホールディングス株式会社(東証2部上場・以下昭和HD)が従来の親会社から、当社株式を追加取得、50.62%の保有で親会社に
 - － 8月の株主総会で役員を受け入れ、経営強化へ



昭和ホールディングス株式会社
(Showa Holdings Co.,Ltd.)

本社：〒277-8556 千葉県柏市十余二348

設立：昭和12年6月1日(創業明治19年12月)

資本金：40億3694万円

上場市場：東京証券取引所：第2部 / 証券コード：5103

昭和HDグループとの提携強化へ

- **中長期での協力体制を構築**
 - － 当社株式の長期保有のもと、今後の双方の事業拡大を積極的に推進するべく5月30日提携の覚書を締結
- **スポーツ関連での協業推進**
 - － 昭和HDグループのスポーツ関連事業では従来から当社が一部の業務受託等で協力。今後は当社が取り組む新規事業なども含み、スポーツ関連事業では協業強化を推進中
- **より大きな事業体で資源を有効活用、管理コスト低減を推進**
 - － 当社グループと昭和HDグループ全体を比較すると純資産で約1.5倍、関連会社を含めた売上規模で約2.6倍となり、提携を通じ実質的な事業規模は拡大
 - － 特に相対的に規模が低下している国内事業については、間接業務に関する効率化や共同での経営基盤強化に効果を期待。協力を通じて中長期での管理コスト削減や自社独自では困難な管理水準向上に注力中
- － **東南アジアでの事業協力**
 - － タイ、シンガポール、マレーシアと近接地域に双方とも海外事業を拡大途上。事業拠点の共有など協力を推進

昭和HDグループ入りを通じ、新たな経営強化へ

当社グループの事業方針

• The Asian Value Innovator

- 東南アジアの活況を活かしつつ、各事業の成長にむけた取り組みを継続
- 海外は今後の成長を果たすため経営体制整備もテーマに
- 日本国内は新規事業育成とビジネスモデルのシフトをはかる取り組みを展開

東南アジア

経営体制の強化

事業拡大にあわせ
継続的な成長を果たすための
体制整備に注力

- 東南アジア事業における企業ガバナンス、統制の強化
- 新たな投資対象事業の発掘
- ファイナンス事業の拡大推進
- 昭和HDグループとの海外展開で協力

日本

新事業の育成

新たなビジネスモデルへのシフトや
新規事業の育成を加速

- 経営環境に適応した
ビジネスモデルへのシフト
- 新規事業の育成
- **スポーツ事業を中心にして
昭和HDグループとの協業を推進**

各事業の取り組み

- **投資育成事業**
 - － シンガポール子会社に事業統合、東南アジアへの投資機会に注力
 - 2011年7月より国内の投資事業はシンガポールの投資法人EHAに集約、海外投資案件に注力するべく再編
 - EHAは保有株式などの出資により大規模な増資を実施
- **ファイナンス事業**
 - － 営業体制の再編から営業拡大へ体制強化を推進
 - 外部営業社員など営業人員の補強を実施中。契約数拡大を図る。
 - － 内部統制など整備も実施
 - 2010年に完了しなかった内部統制制度への対応は実施中。
- **コンテンツ・物販事業**
 - － 収益事業に重点的に資源強化
 - カードゲーム事業を中心に人員体制の強化など組織再編。来期の受注拡大に向けても体制強化。
 - 編集業務も大型案件の獲得へ注力

業績予想と株主還元について

2011年9月期(第10期)の連結業績予想

● 連結通期業績予想と進捗状況

(単位：百万円)

	2011年度 通期業績予想	2010年度 通期実績	対前年比	2011年 第3四半期実績	進捗率
売上高	4,000	3,699	108.1%	2,820	70.5%
営業利益	1,000	802	124.7%	830	83.0%
経常利益	950	761	124.8%	782	82.3%
当期純利益	280	369	75.9%	201	71.8%

- 第3四半期まで、業績は順調に進捗中
- 第4四半期においても国内、海外事業ともに従来からの業績予想に変更はなし、営業利益・経常利益では2割超の増益を見込む

業績予想に対して想定どおりに進捗中

株主還元に関する方針

- **安定的な評価確立と長期保有株主の増加で株価水準の回復をめざす**
 - 震災の影響は軽微にもかかわらず、3月以降株価は低水準で推移
 - 今後もIR活動の充実等の取り組みを継続的に実施、中長期で保有、評価される銘柄を今後目指す
- **安定配当を継続しつつ業績拡大に応じた見直しも実施**
 - 東南アジアを中心にした今後の成長に向けた資金需要を勘案し、予定配当は1株100円を維持
 - 大幅な業績の変動、安定的収益の見通しに合わせ配当は見直し
 - 子会社からの配当も増加傾向続く。前期後半から資本政策の見直しも実施。自己資金の有効活用を図る

事業改善の成果から中長期視点で堅実に株主還元へ



Thank You!

弊社IRに関するお問い合わせ先
株式会社ウェッジホールディングス 経営管理本部
TEL: 03-6225-2161 / FAX: 03-3548-0566
wedge-ir@wedge-hd.com
<http://www.wedge-hd.com>

※本資料には将来に関する記述が含まれていますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではありません。また、本資料の内容に関しては未監査であり、その内容の正確性および確実性を保証するものではありません。